

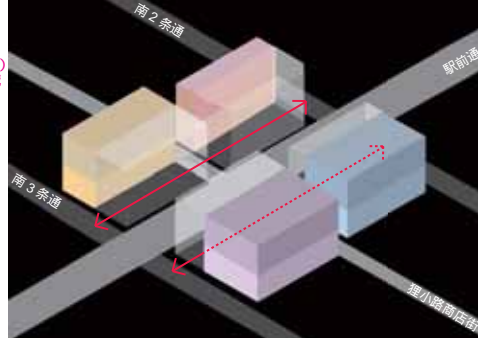
Circulatory Square

Fase 四つのアート施設をつくります

交差点に面する四つの建物に、音楽・舞台系、美術・映像系、衣料・服飾系、IT・マネジメント系という特色を与えます。南2条通と南3条通、地上と地下をつなぐオープンスペースとしてのウィンターガーデンを備えた各施設の低層部には創作・発表部門を、高層部にはアーティスト用の居住域を設けることで、24時間創作活動が出来る環境が整います。

衣料・服飾棟

駅前通側 ウィンターガーデン(ショーウィンドウ)
高層部 服飾デザイナー・パタンナーなどの居住域
低層部 工房・アトリエなど



IT・マネジメント棟

駅前通側 ウィンターガーデン(情報ステーション)
高層部 SE・ベンチャー企業家などの居住域
低層部 オフィス・会議スペースなど

美術・映像棟

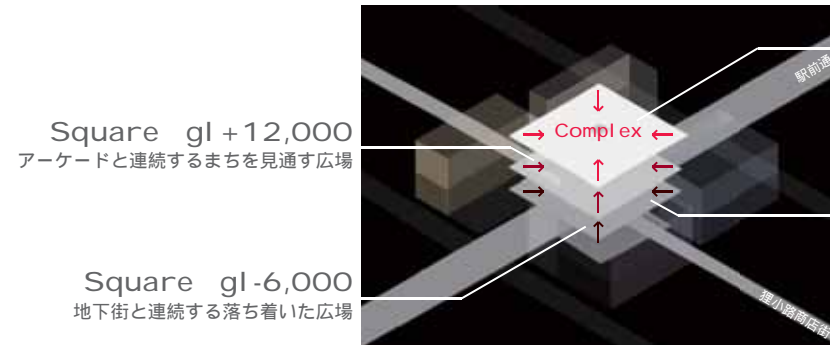
駅前通側 ウィンターガーデン(ギャラリー)
高層部 画家・映画監督などの居住域
低層部 アトリエ・シアターなど

音楽・舞台棟

駅前通側 ウィンターガーデン(イベントホール)
高層部 音楽家・俳優など居住域
低層部 スタジオ・楽屋など

Fase 四つのアート広場をつくります

交差点の中心を核としたアート広場を、地下街、地上、狸小路アーケード、屋上レベルにそれぞれ設けます。上記の四つのアート施設で行われる多様な創作活動が様々なかたちで出会うことによって、異ジャンルを横断した新しいアート活動(Complex)が生まれることでしょう。



Square gl +30,000
空に開かれた明るい広場

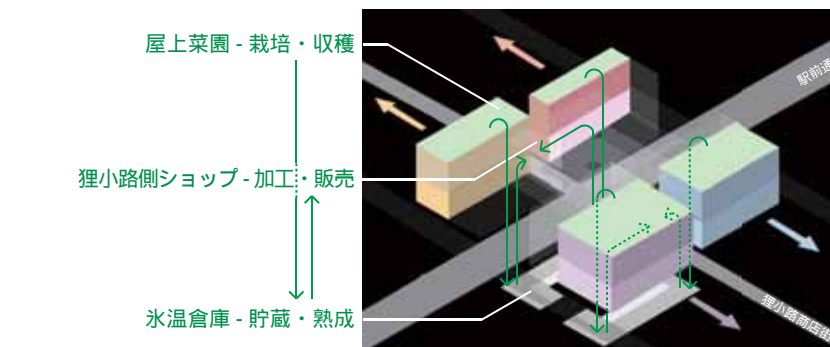
Square gl ±0
まちや交通とつながる動きのある広場

Square gl +12,000
アーケードと連続するまちを見通す広場

Square gl -6,000
地下街と連続する落ち着いた広場

Fase アートと経済をつなぎます

屋上を菜園として整備すると同時に、地下に居住者自ら排雪することにより生まれる雪氷冷熱を利用した氷室を併設する氷温倉庫を設置します。それぞれの施設がアートの見本市になるだけでなく、菜園で採れた食材を氷温倉庫で熟成して地上部で販売することと、軽減された市除雪費の支給により、アーティストの生活を自立させます。

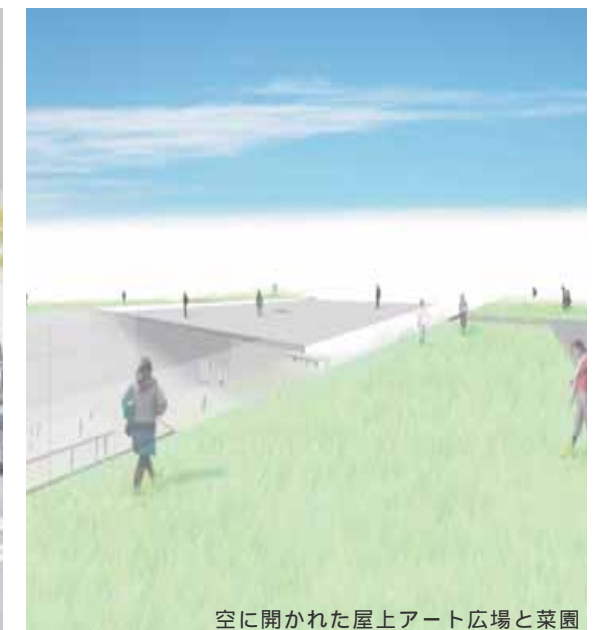
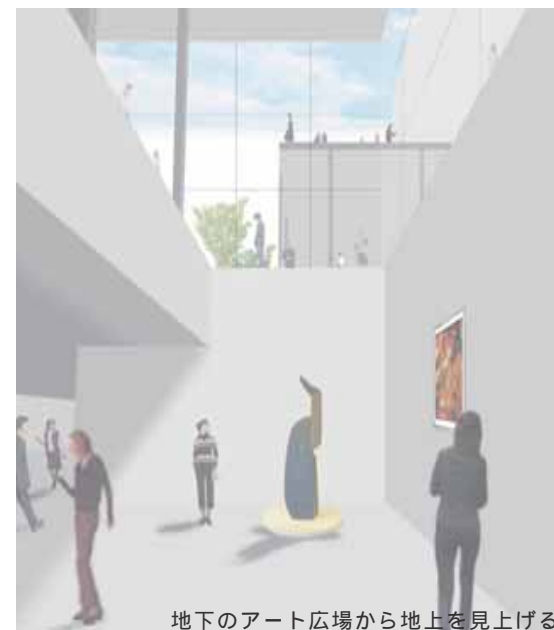


狸小路商店街の今後のあり方

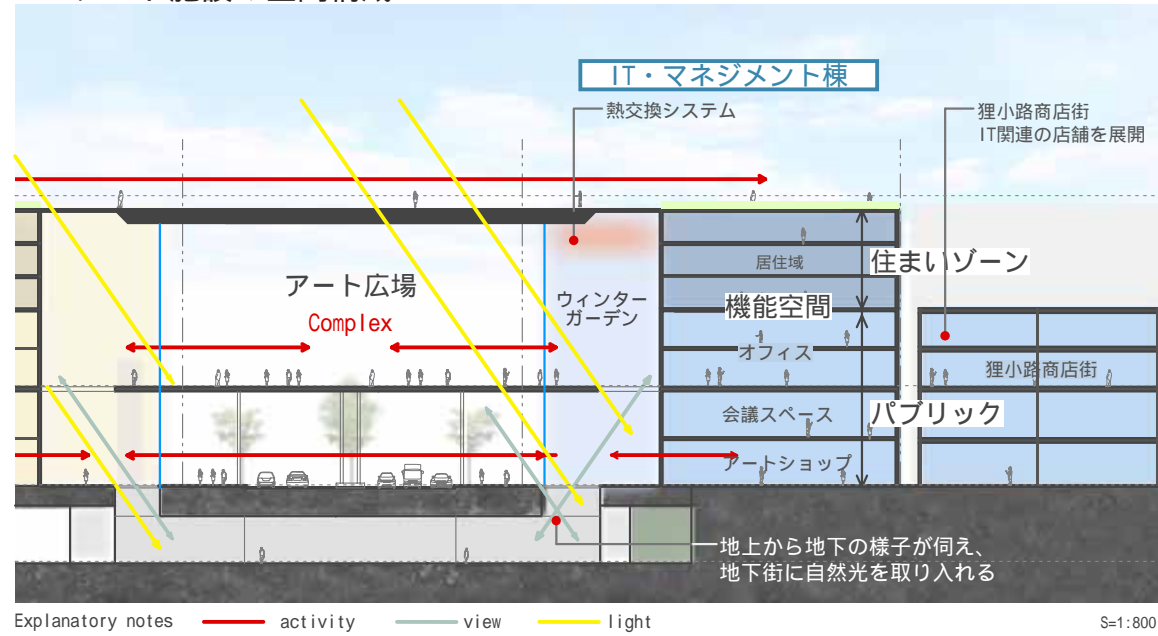
各アート施設・広場のアクティビティの広がりに伴い
それぞれの特徴に合った店舗が展開

特殊な風土ゆえに発達した地下空間の活用、雪氷冷熱の有効利用、豊富な食材資源の付加価値を高めるなどの行為そのものが風景として成立することはさっぽろらしさの表れであると考えます。さらに言えば、風土の特殊性に依拠した「経済的な自立」と、さっぽろに住む方々の封建的ではないレベルなもの感じ方による「精神的な交流」の具現化こそが、今後の「さっぽろにふさわしい」景観の指標になると信じています。

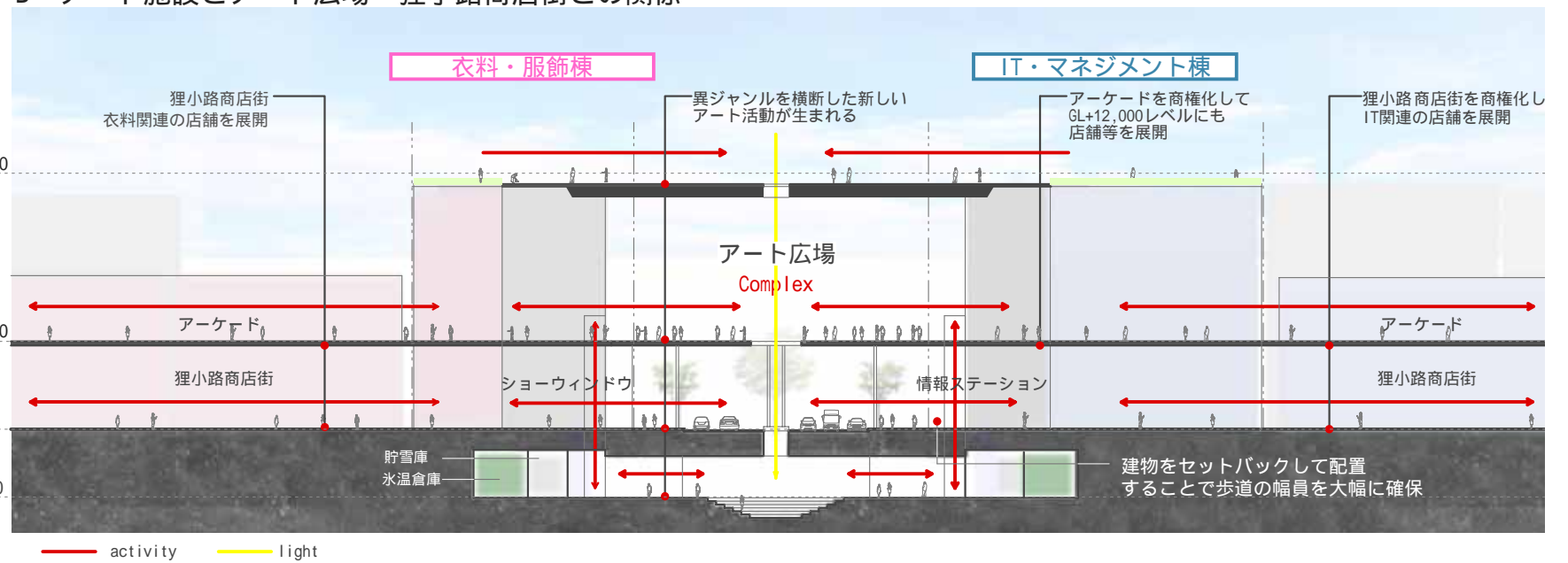
上記のプロセスにより アートのための自立循環型の場 -Circulatory Square- がいまここに誕生します



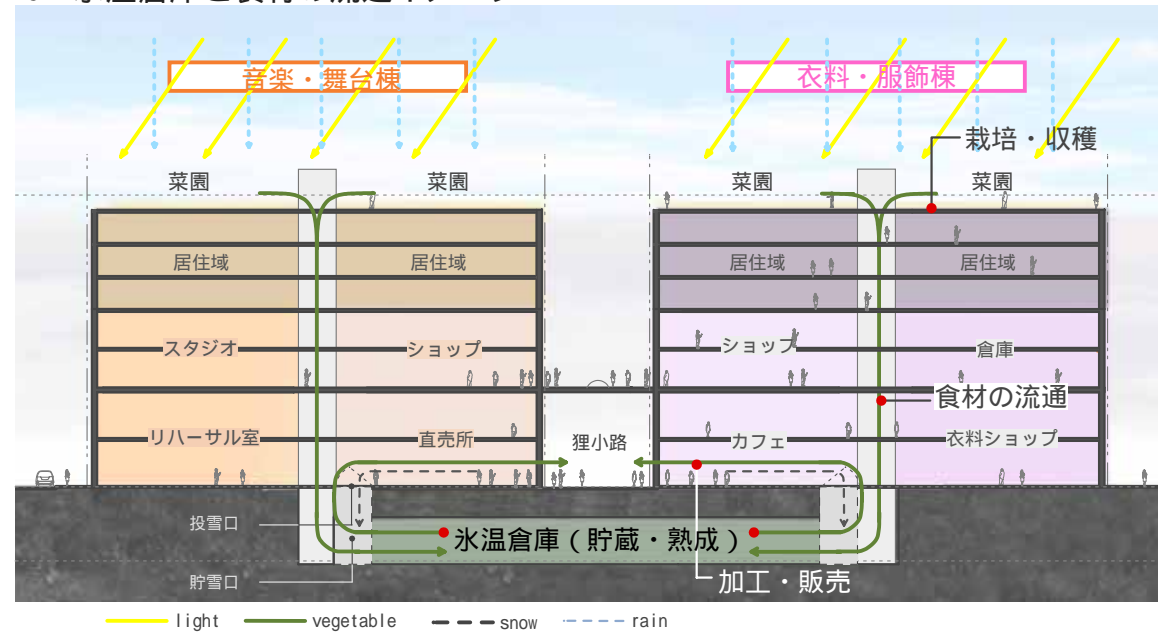
A・アート施設の空間構成



B・アート施設とアート広場・狸小路商店街との関係



C・氷温倉庫と食材の流通イメージ



D・アート広場とウィンターガーデンのアクティビティイメージ

